令和４年度 第１回 米子市児童文化センター運営委員会　発言要旨

1. 施設運営の目標について

（委員）

指定管理期間を、職員の資質の向上及び地域に開かれた施設にする為の 10 年だと解釈している。基本方針の中にある連携・協働が固定されたものでだけでなく、新しい組織・グループとの連携・協働を図っていくことで、10 年後は更に新しいグループや組織とつながっていけると考える。指定管理を受けた当初から、10 年後の施設の在り方について、どのような目標を持っているか明確にしてほしい。

（事務局）

当施設は、小さな子どもを抱えた方の利用が多い為、小・中・高校生の利用者数も増やしていきたい。異年齢交流を通して沢山のものを育める場所にしていきたい。

2. 現状と課題

（委員）

・平日の親子の来館が減少している。「子育て支援施設」として、市の保健士、管理栄養士、子育て支援の関連課の協力を得、相談窓口を設け情報提供を行うなどし、地域に開かれた施設となってほしい。

・当初は青少年育成を図ることも目的として開設されたが、近年は幼児保育の場となりつつあることを危惧している。

・感染症により、収容人数制限があり、当館を利用した学校活動も縮小となっている。以前は見られた異年齢交流もあまり見られなくなった。週末には、科学に興味があれば来館する中高生もいるが、部活動があり当館を利用しない学生も多い。

・現代は、子育て世代が意見交換の出来る場や、インスタグラムやＬＩＮＥといったツールを活用して活動するグループも多く存在する。ターゲット層が、何を必要として何があれば足を運ぶのか、といった情報を収集していくことも必要である。

3. 広報活動について

（委員）

・子ども会の会議の場に職員が出席し、子ども達に寄り添って活動できることを広報している。ホームページは見やすく、意見も取り入れやすい工夫がなされている。職員も工夫を重ね、多様なニーズに応えている。

・地域貢献で幅広く活動している国立米子工業専門学校や、大山青年自然の家、米子城、湊山公園といった各所と協賛するのも、利用者の拡充及び活動を広める一つの手法ではないか。

・職員が専門性を活かしたリモート授業を行うなどし時代の流れに沿った形で子ども達とつながっていくことも出来るのではないか。

（事務局）
・感染症による現状が落ち着けば以前のように学校へ訪問といった活動も可能となる。
・国立米子工業専門学校とは長期に渡り、年に一度協力事業を開催している。

4.利用者の利便性を図るために取り組んでいくこと
（事務局）
・大山青年の家などの研修に参加し、職員の活動の幅を広げていく。
・様々な事業活動の中から学び得た発想や技術を、新たな取り組みに活かし広げていく。
・課題としている情報発信は、Facebook 以外の SNS も活用し、問合せ事案について迅速に対応することが出来るよう、引き続き準備を進めていく。

5. 利用者アンケートについて
（委員）
・洋式トイレ及び男子トイレへの汚物入れの設置を要望する。
・利用者アンケートでの提案・要望に対し、どのような策を講じ対処したのかを、情報として提供してほしい。

6. その他
（委員）
・多くの来館者がある中で重大な事故が起こり得る可能性も否定できない。来館者及び職員の安全の為にも防犯カメラの設置を望む。
（事務局）
・防犯カメラは安全確保・施設管理には有効な手法の一つとして認識している。今後も、当館に適した有効な安全確保・施設管理の方法を、見回りも含めて検討していく。

以上。